



本事業は、SDG s の「17 パートナシップで目標を達成しよう」に資する取組です。

2025 年 8 月 30 日（土）
愛知県政策企画局国際課
国際戦略グループ
担当 上窪、織田
内線 2256、2447
ダイヤルイン 052-954-6130

愛知県経済産業局産業部
産業立地通商課国際業務企画グループ
担当 唐松、上野
内線 5299、3448
ダイヤルイン 052-954-6356

愛知県労働局
就業促進課業務・調整グループ
担当 石川、杉浦
内線 3430、3431
ダイヤルイン 052-954-6363

知事のフィリピン渡航中の行事結果について

2025 年 8 月 29 日（金）午前、知事はフィリピン共和国・パサイ市において、マリア・テレサ・ラザロ外務大臣と面談しました。

その後、マカティ市において、クリスティーナ・ロケ貿易産業大臣と面談し、「経済交流に関する覚書」を締結することで合意しました。

午後には、マカティ市において、移住労働者省のドミニク・ルビア＝トゥタイ次官、バーナード・P・オラリア次官及びフェリシタス・Q・ベイ次官と面談し、「産業人材の受入れ、育成及び交流に関する覚書」の締結について、今後協議を重ねていくことを合意しました。

1 マリア・テレサ・ラザロ外務大臣との面談

（担当課：国際課）

（1）日時

2025 年 8 月 29 日（金）午前 10 時から午前 10 時 30 分まで
（日本時間 8 月 29 日（金）午前 11 時から午前 11 時 30 分まで）

（2）場所

外務省仮庁舎（パサイ市）

（3）面談者

マリア・テレサ・ラザロ外務大臣

（4）愛知県側出席者

大村秀章知事

えんどう かずや
遠藤和也駐フィリピン日本国大使

(5) 内容

大村知事は、フィリピン共和国 外務省において、マリア・テレサ・ラザロ外務大臣と面談しました。

大村知事からは、「愛知県では、貴国に対し官民挙げて公館開設を要望し続けてきた中で、2019年12月に名古屋に総領事館の開設が実現された。開設を実現された貴国政府に改めて敬意を表したい。今回の貴国訪問に関しても、マナンキル在名古屋フィリピン総領事を始め、総領事館の皆様には多大なるご支援をいただいた。」と、在名古屋フィリピン総領事館開設に対して感謝の意を表しました。

さらに、「愛知県には、日本国内で最多の約47,000人のフィリピン人が在住され、愛知の発展に貢献されている。名古屋に総領事館が開設されたことに加え、愛知県では今年4月に「あいち外国人材受入サポートセンター」を設置し、外国人材の雇用に関する支援を進めている。愛知県には、全国で最も大きいフィリピン人コミュニティが存在し、フィリピンの皆様にとって日本で最も住みよい場所になったと言える。また、歴代の総領事たちが精力的な活動を続けており、愛知県ではフィリピンの魅力に触れるイベントが多く開催され、私も大変楽しませてもらっている。さらには、愛知県からフィリピンには74社が進出しており、活発にビジネスを行っている。このように貴国との間には深い繋がりがある。」と発言しました。

これに対し、ラザロ外務大臣から、「フィリピン人たちは日本、そして、愛知県が大好きであり、愛知県に在住するフィリピン人の数も、間もなく50,000人に到達するのではないかと思う。日本は、政府機関の職員にも非常に人気な場所で、愛知県への赴任を希望する職員もたくさんおり、多くのフィリピン人たちが愛知県との連携を望んでいる。そのため、名古屋に総領事館を設置したのは正しい判断だったと考えている。」と発言がありました。

また、大村知事は、ジブリパークや今年7月にオープンした世界トップレベルのアリーナであるIGアリーナについてPRするとともに、「愛知県では、2026年にアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催され、2027年には第60回アジア開発銀行年次総会が開催される予定である。これを機に、今後も多くのフィリピンの方々に愛知県を訪問いただき、貴国との関係をより一層深めていきたい。」と発言しました。

ラザロ大臣からは、「2026年のアジア競技大会・アジアパラ競技大会では、我々も参加国の一員として、選手たちを送り出す予定であり、大会の成功を祈っている。2027年の第60回アジア開発銀行年次総会についても、開催国に選ばれるということは、それだけ愛知県が開催するのにふさわしい場所であると認められたのであり、大変喜ばしいことである。開催に向けて、各方面と準備を進めているところだと思うが、こちらでも成功を祈っている。」と発言がありました。

さらに、ラザロ大臣は、「愛知県は製造業が盛んな産業の中心地であり、多くのイベントが開催される、大変魅力的な場所である。また、東京と大阪に次いで、日本で3番目の数を誇る、50以上の大学があるということで、大学教育のレベルの高さにも注目している。さらに、我々は現在、スタートアップのビジネスにも力を入れ始めている。このような分野で協力関係を築いていけたらと考えているので、これからもよろしく願います。」と発言し、今後も両国の発展に向けて協力していくことを確認しま

した。



記念撮影①



マリア・テレサ・ラザロ外務大臣との面談の様子



記念撮影②

2 クリスティーナ・ロケ貿易産業大臣との面談

(担当課：産業立地通商課)

(1) 日時

2025年8月29日(金) 午前11時から午前11時55分まで
(日本時間8月29日(金) 正午から午後0時55分まで)

(2) 場所

貿易産業省(マカティ市)

(3) 面談者

クリスティーナ・ロケ貿易産業大臣

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

えんどうかずや
遠藤和也 駐フィリピン日本国大使

(5) 内容

初めに、ロケ貿易産業大臣から、「大村知事はじめ愛知県の皆様をフィリピン貿易産業省にお迎えできたことを嬉しく思う。愛知県は日本の産業の中心であり、フィリピンにも多くの愛知県企業が進出している。今後さらにフィリピン国内への企業誘致を

進めていきたい。現在、愛知県との『経済交流に関する覚書（MOU）』については、フィリピン政府内での手続きを進めており、この MOU の下で、エレクトロニクス、自動車、宇宙などの製造業、ロジスティクス、イノベーション、スタートアップなど、経済面での交流を活発に進め、長期的な連携関係を築きたい。フィリピンへの投資を歓迎し、フィリピンへ進出している企業への支援にも力を入れていきたい。」と発言がありました。

大村知事からは、「フィリピンには、トヨタ自動車をはじめとする愛知の企業 74 社が進出して活発にビジネスを行っている。愛知の企業が事業を展開することにより、フィリピンでの雇用創出や経済の発展に貢献していることを喜ばしく思う。」と発言するとともに、「愛知県には、日本国内で最多の約 47,000 人のフィリピン人が在住され、愛知の発展に貢献されている。2019 年 12 月には、名古屋に総領事館が開設され、領事業務など各種サービスの提供が可能となったほか、愛知県としても、今年 4 月に『あいち外国人材受入サポートセンター』を設置し、外国人材の雇用に関する支援などを進めているところである。」と、愛知県とフィリピンとの交流状況について述べました。

さらに、愛知・名古屋では 2026 年 9 月・10 月にアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が、2027 年 5 月には、マニラに本部を置くアジア開発銀行第 60 回年次総会が開催される予定であることなど、国際的なイベントや会議の誘致を推進していることを説明したほか、2026 年 6 月に愛知県で開催する国際的な産業展「AXIA EXPO 2026」のアジアパビリオンへのフィリピン企業や政府機関の出展を呼びかけました。

そして、「フィリピンは、人口増加や経済成長率などの面で成長が著しく、特に、若く豊富な労働力や大多数の方が英語を話せることなどが大きな強みであり、貴国のような活気溢れる地域との交流を進めていきたい。そのため、愛知県とフィリピンとの経済面での連携強化に向け、セミナー、会議、商談会等の経済交流事業の実施や、双方の企業活動に対する協力等を推進する MOU を締結したい。」と呼びかけました。ロケ貿易産業大臣からは「MOU の政府内の調整は最終段階であり、大統領府の承認を待っている。承認され次第、正式に MOU を早く締結したい。」とコメントがあり、今後、MOU を締結することで合意しました。

また、同席したロドルホ次官から、「MOU 締結を契機に、さらにフィリピンへの投資や企業の進出を活発にし、フィリピンを日系企業の製造業のハブへと成長させたい。」との発言がありました。

これを受け、大村知事から、「今後、MOU を早期に締結し、愛知県と貿易産業省との連携関係をさらに深めたい。特に、企業間の交流や人材交流を進めていきたい。また、日本を訪問される機会があれば、ぜひ愛知県へ立ち寄っていただきたい。その際には、ジブリパークを案内させていただきたい。」と改めて今後の連携・交流の促進を呼びかけ、懇談を締めくくりました。



ロケ貿易産業大臣との面談の様子



ロケ貿易産業大臣との面談の様子



記念品交換

(左からロドルホ次官、ロケ貿易産業大臣、大村知事、遠藤大使)



ロケ貿易産業大臣との記念写真

3 ドミニク・ルビア＝トゥタイ移住労働者省次官、バーナード・P・オラリア同省次官及びフェリシタス・Q・ベイ同省次官との面談

(担当課：就業促進課)

(1) 日時

2025年8月29日(金) 午後2時から午後3時まで
(日本時間8月29日(金) 午後3時から午後4時まで)

(2) 場所

移住労働者省(マカティ市)

(3) 面談者

ドミニク・ルビア＝トゥタイ移住労働者省次官
バーナード・P・オラリア 同省次官
フェリシタス・Q・ベイ 同省次官

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、移住労働者省において、ドミニク・ルビア＝トゥタイ移住労働者省次官、バーナード・P・オラリア同省次官及びフェリシタス・Q・ベイ同省次官と面談しました。

初めに、ルビア＝トゥタイ次官から、「知事が率いる愛知の皆さんをお迎えできて大変嬉しく思っており、カクダック大臣に代わり歓迎する。愛知県には日本で一番多

いフィリピン人が住んでおり、労働者も多い。移住労働者省は、ジャパンオフィスを設置して、日本で働くフィリピン人労働者のサポートを行っている。」との発言がありました。

これに対し、大村知事から、「愛知県には、日本国内で最多の約 47,000 人のフィリピン人が在住しておられ、県内企業等では約 34,000 人のフィリピン人が働いている。今後もまだまだ増えていくと考えており、貴国のような活気溢れる地域との産業人材面での交流を進めていきたいと思う。日本で最も優れたモノづくり産業の集積がある愛知県の企業に、フィリピンの若者を受け入れ、就業を通じた育成を行うことや、両国の人材交流を進めることは、相互理解をより一層深め、両地域の更なる発展を促進するものと考えている。」と述べ、そのため、愛知県と移住労働者省との間で MOU を締結することを提案しました。

また知事は、「愛知県は、外国の若い人にとって住みやすく、働きやすい街。MOU を結ぶことで、フィリピンの若年人材を愛知県に受け入れ、愛知の企業で就業を通じた育成を行いたい。具体的には、移住労働者省と合同で、県内企業の説明会や交流会を開催できればと考えている。製造業はもちろん、愛知は農業分野も盛んである。農業、介護、福祉分野においても愛知県は人材を必要としているので、フィリピンの若者に来ていただきたい。そうした分野でも連携していきたい。」と述べました。

これに対し、ルビア＝トゥタイ次官は、「愛知県から提案された MOU 案の内容について、フィリピン政府内で検討をしており、高等教育など関係省庁から前向きな意見が出ている。フィリピン政府としての案を取りまとめ、愛知県とさらに協議した上で、今年度内の MOU 締結を目指したい。」と述べられました。

さらに、オラリア次官からは、愛知県とフィリピン政府との間で、MOU の具体的な内容を検討するためのワーキンググループの設置について提案があり、知事からは、「MOU の締結に向けて、両者が事務レベルで連絡を取り合って円滑に検討を進めていけるようにしたい。」と応じました。



面談の様子①
(右手前から、オラリア次官、
ルビア＝トゥタイ次官、ベイ次官)



面談の様子②
(フィリピン側中央が、ルビア＝トゥタイ
次官)



MOU の締結を提案する知事



記念品交換の様子
(左側が、ルビア＝トゥタイ次官)